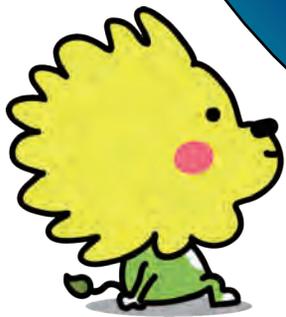
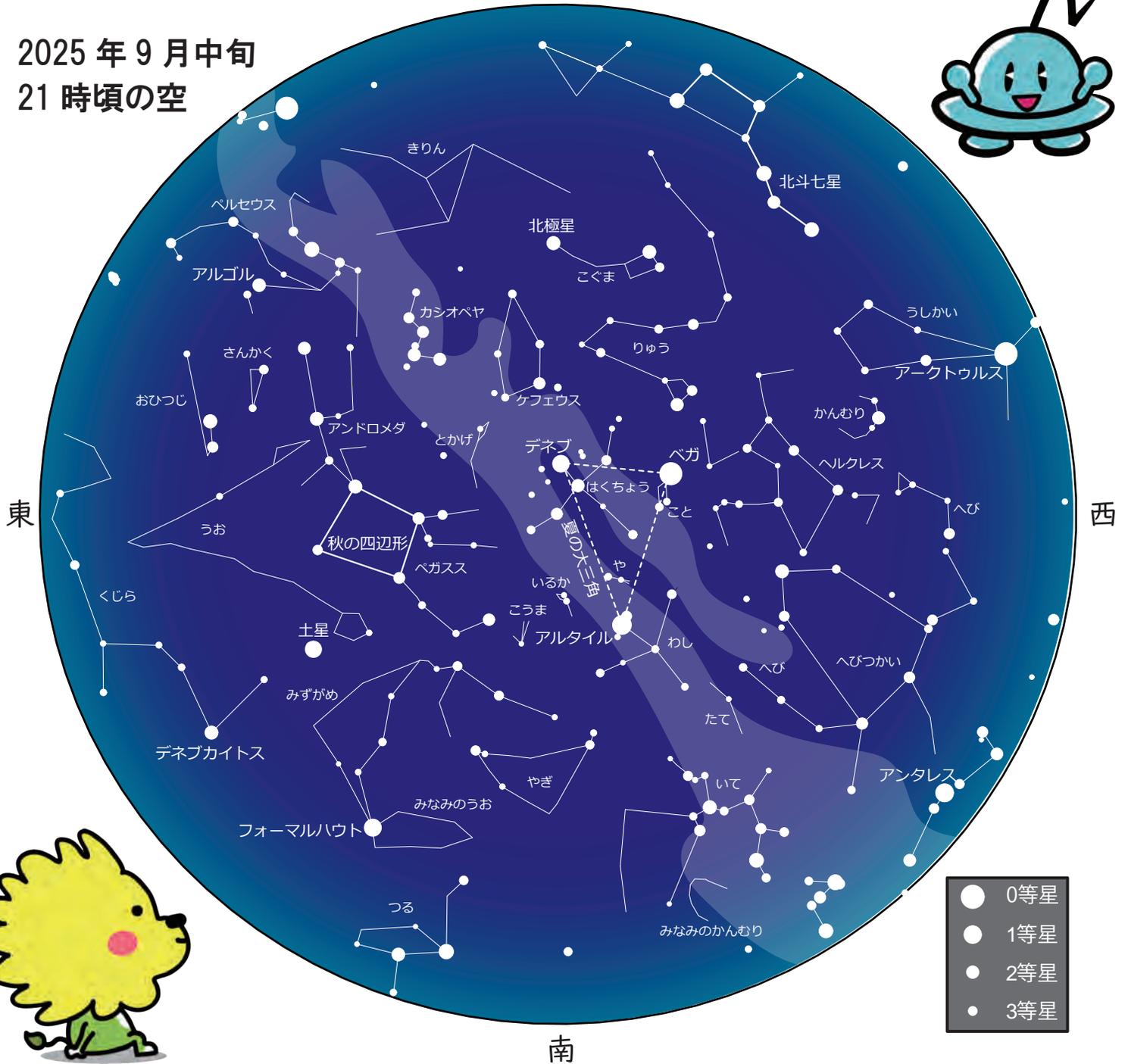


9月の星空案内

北

2025年9月中旬
21時頃の空



暑さが残り、秋の訪れを感じさせてくれない9月。夏の星座が輝く中、東の空を見てみると秋の星座たちも顔を見せ始めています。東の空で見える大きな四角形は**秋の四辺形**といいます。4つある星のうち、3つは**ペガサス座**という星座の星です。もうひとつの星は秋の四辺形の中で一番明るい二等星で**アルフェラッツ**（約2.1等）といいます。アルフェラッツは馬のおへそという意味がありますが、この星だけはペガサス座ではなく**アンドロメダ座**に属する星です。もともとはペガサス座の星だったのですが、1928年に国際天文学連合によってアンドロメダ座の星と正式に決められました。秋の四辺形の近く、南東の空には一等星くらい明るく輝いている**土星**（約0.6等）がいます。土星は今年、約16年ぶりに特徴的な環がたいへん細く見える時期となっています。

天体観望会のご予約はネットかお電話にて **【毎週土曜日開催】**

阿南市科学センター 電話 0884-42-1600 <https://ananscience.jp/science/>

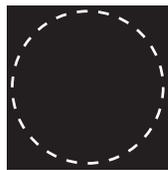
9月の月の満ち欠けと惑星について



満月
8日



下弦
14日



新月
22日



上弦
30日

天体観望会で
月が見えるおすすめ日時は？



9/6：全ての回で観察可能

- 水星：初旬の明け方ごく低空に見える。【-1.2等】
 - 金星：夜明け前、東の低空で明けの明星として見える。【約-3.9等】
 - 火星：日没後すぐに西の空に沈む。【約1.6等】
 - 木星：後半夜から明け方にかけて東の空で見える。【約-2.1等】
 - 土星：日没後から一晩中見える。22日に衝【約0.6等】
- ※各惑星の等級は中旬頃の明るさ（水星のみ9月初旬の明るさ）。

今月は皆既月食があるよ！
科学センターでも配信をしているから
ぜひ見に来てみてね！



注目の天文現象

【9月8日月曜日の深夜から朝にかけて、約3年ぶりの皆既月食が起きる】

2022年11月以来、約3年ぶりの皆既月食が9月8日（月）にあります。月食が始まる時間は深夜1時半頃から、終わりは朝の5時前と、学校や会社等がある方にとっては少し見づらい時間かもしれませんが（図1）。頑張って早起きをしましょう。とはいえ実は来年の3月にも皆既月食があります。2026年3月3日、ちょうどひな祭りのこの日に起きる月食は夜8時半頃から始まりますので、比較的観察がしやすくなっているため、3月の月食を狙ってみるのも良いかもしれません。

さて、そんな皆既月食はどのような仕組みで発生するのでしょうか。その答えは太陽、地球、そして月が一直線にならんだ時に月が地球の影に入るためです。月が本影にすっぽり入った月食のことを皆既月食、月の一部が本影に入る月食を部分月食といいます（図3）。また、月食は必ず満月の時に発生します。太陽、地球、そして月が一直線にならんだ時に月食は起きるので、地球から見た月は必ず太陽光を前面に受けて光っている満月になるわけです。とはいえ満月の日には必ず月食が起きるのかといわれますとそうではありません。月は地球の周りを約27日かけて回っていますが、その軌道（月の通り道）は地球に対して約5°傾いています。そのため、同じ満月でも毎回地球と月、そして太陽が一直線に並ぶわけではないのです（図2）。

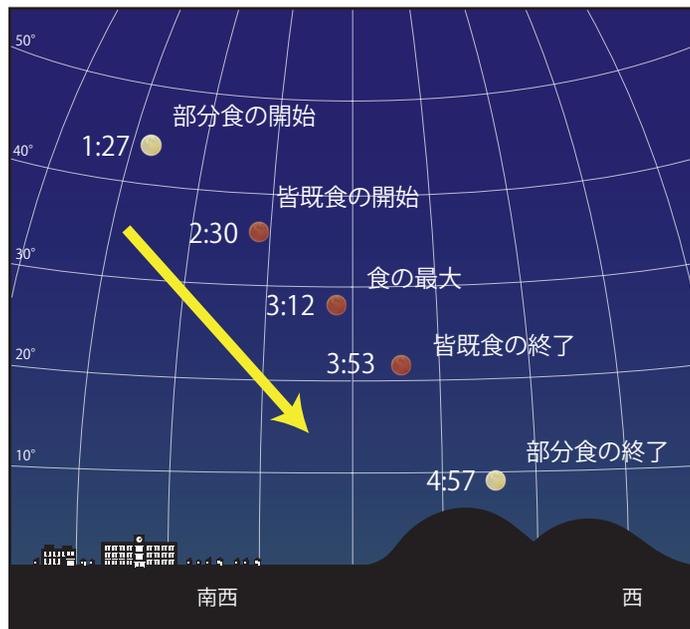


図1 阿南市から見た皆既月食の様子

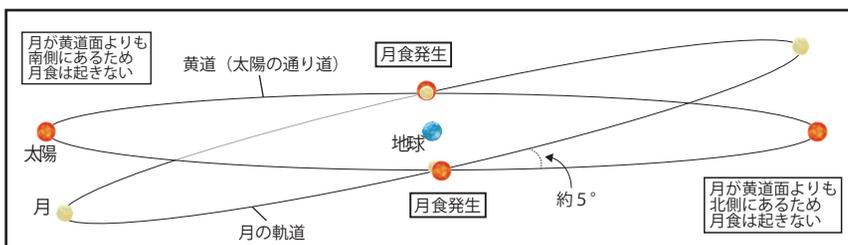


図2 地球から見た太陽と月の動き

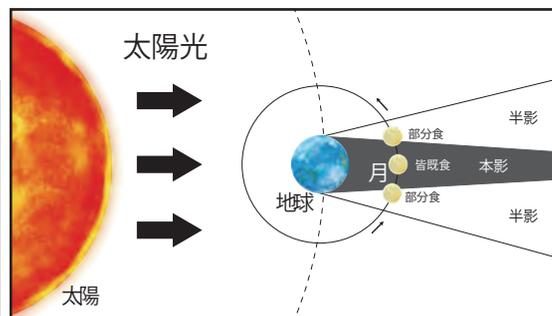


図3 月食における三天体の位置関係